

テーマ2：四日市ならではの文化の情報発信と活動の場づくり

ものづくり、定期市、港など十分理解されていない文化資源を市民とともに発掘、再認識することにより、誇りが持てるまちづくりを進めるとともに、四日市ならではの文化を、観光や商業などと連動させながら、情報発信する。

また、市民が気軽に文化に触れ合うことのできる機会、文化活動の場を提供する。

現状と課題

本市では、祭りや伝統芸能、文化財、市民の文化活動などを貴重な四日市の文化として捉え、保全・育成を行ってきた。国・県・市の指定あるいは登録文化財は109件あり、この中には、大四日市まつりの郷土文化財行列でも有名な大入道や鯨船、あるいは、四日市の近代化産業遺産でもある末広橋梁や潮吹き防波堤なども含まれている。

これらはどれをとっても、四日市のまちの成り立ちや人びとの暮らしぶりを伝えるものであり、文化財に指定あるいは登録されてはいないものの、大切に保存・伝承されてきたものなども多くある。

こういった数多くの文化を効果的に市民に知らせることが不十分であったため、本市の文化を市民が共有し、愛着と誇りと自信を持って語れるような取り組みが必要である。

一方、地区市民センターにおいて、多くの文化活動が行われているが、これらは地域住民にとって最も身近な場で文化活動に参加できるものであり、ひいては地域活動に携わる人材育成につながることを期待できる。

また、文化会館の例を見れば、その利用率は大変高く(11月平均利用率93%)、多くの市民が文化活動等に利用されている半面、施設予約が困難な状況にあるなど、文化活動の場が不足している実態があり、今後遊休化される公共施設も有効に活用しながら、文化活動の場を確保していく必要がある。

さらに、若者の社会とのコミュニケーションが希薄になる中で、高校生などの若者が集い、若者同士が語り合うことができる場、または彼らが文化活動を行うことができる場が必要となっている。

リーディングプロジェクト

(四日市文化の情報発信の戦略づくり)

四日市の文化を内外に継続的に発信するため、本市の持つ豊富な文化財・文化資源について、市民、市民活動団体、事業者など多様な主体の参加と協働・連携の下、市民誰もが再認識し、共有できるシステムづくりを進める。

その上で効果的な情報発信の仕組みを、観光や産業など他分野と連携する形で構築し、内外へ向け、市民や事業者と協働してプロモーション活動を推進するとともに、さらに博物館などの展示にも積極的に反映させていく。

(文化活動の場づくり)

市民ニーズにマッチした文化振興施策を推進するほか、文化会館などの施設を補完するため、今後、遊休化が予想される公共施設(学校施設)の活用についても視野に入れつつ、新たな芸術、文化活動の場づくりを検討する。

また、身近な文化活動の場については、市民の多様で活発な活動がますますさかんになるよう、市民が民間の文化施設を活用するにあたっての支援策をより充実させるとともに、中心市街地をはじめとして、市民や民間事業者の熱意や協力による「文化の駅」の設置など、文化活動の場づくりを充実する。また、各地域においては、地区市民センターなどを拠点に、学校や企業などとの地域内連携を図るなど、多様な文化活動の場の充実を進める。

「文化の駅」とは、中心市街地の空き店舗を活用する「メインステーション」や地域の郵便局や銀行などを活用する「ローカルステーション」により、人々が集い、文化活動の発表、体験や交流のできる場のこと。

(四日市ならではの若者と地域の交流の場「若者文化ステーション」の展開)

中心市街地において、空き店舗などを活用して実業系高校などの生徒を中心に文化活動等の発表の場としての「若者文化ステーション」を創出し、「すわ公園交流館」との連携も図っていく。